

経営比較分析表（令和3年度決算）

群馬県邑楽館林医療事務組合（事業会計分） 館林厚生病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透訓ガ	救臨感災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	31,885	-	第2種該当	7：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
323	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	329
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
307	-	307

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

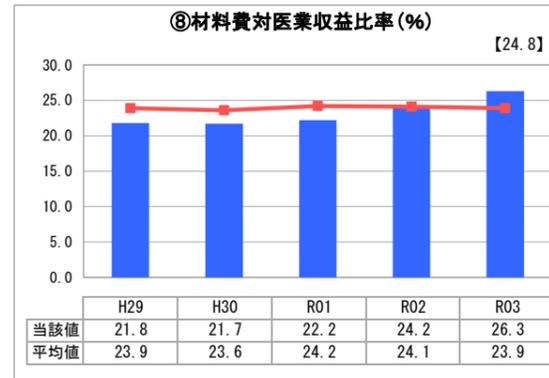
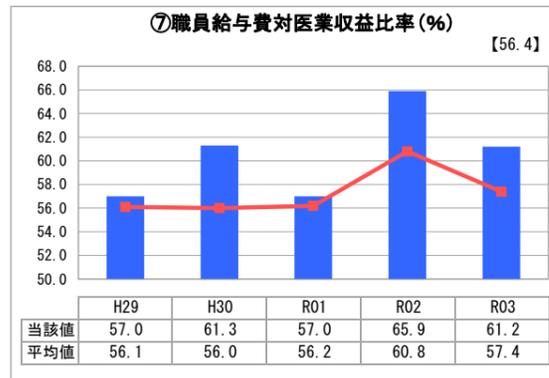
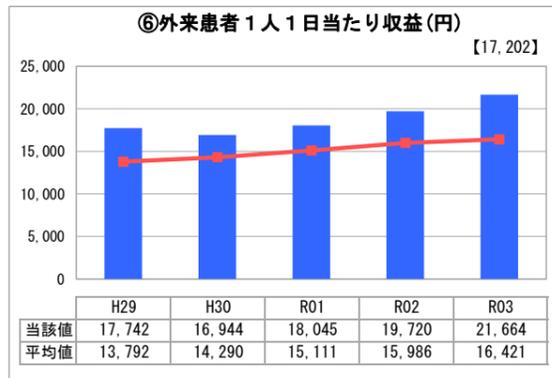
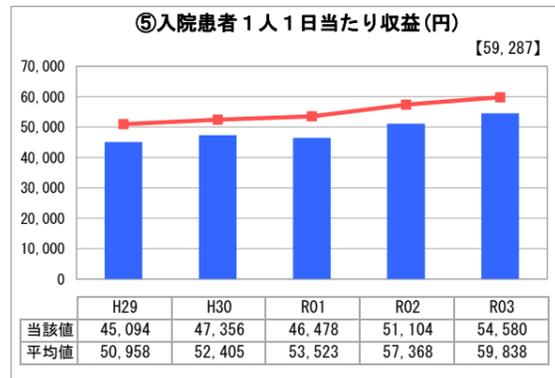
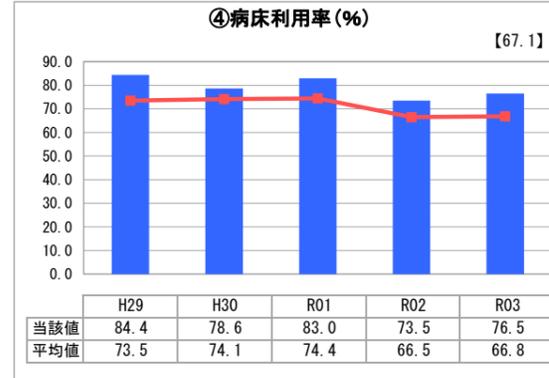
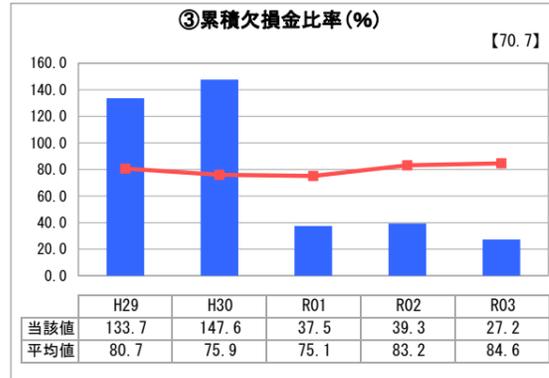
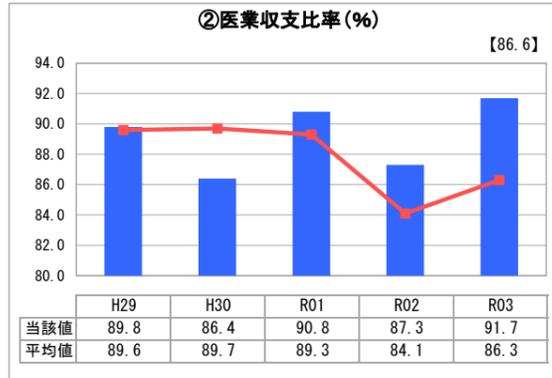
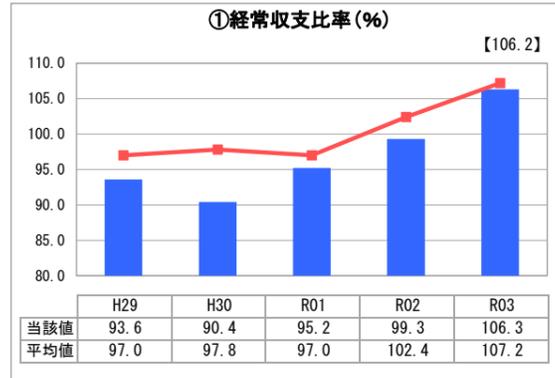
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

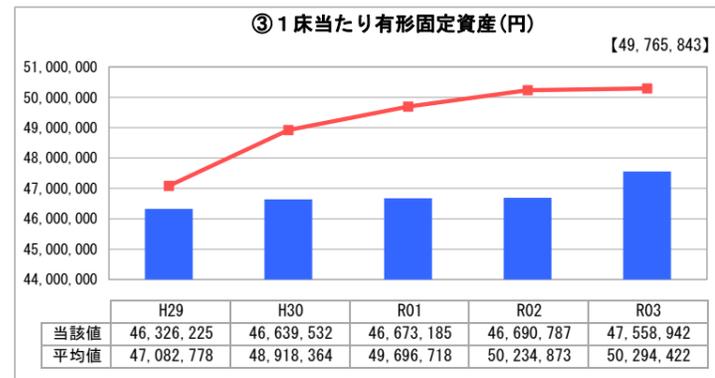
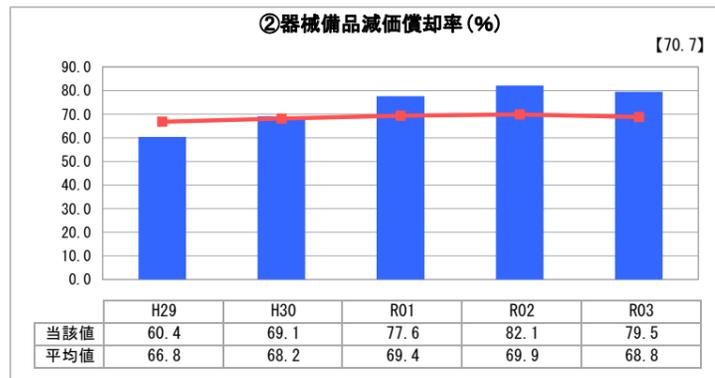
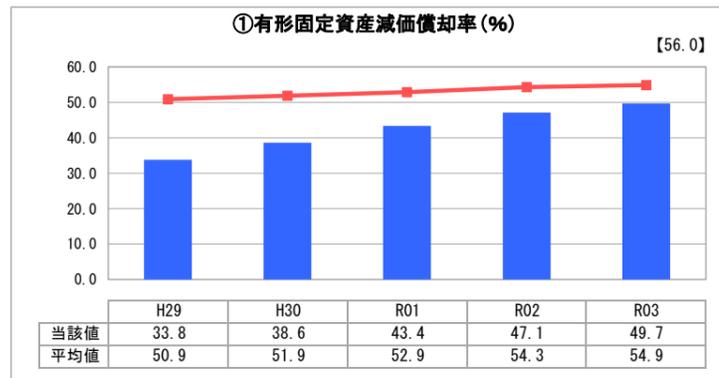
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



I 地域において担っている役割

当院は邑楽館林地域の中核病院として、救急や急性期疾患の治療をはじめ、回復期リハビリテーションや地域包括ケアを行う病床を備えており、急性期から在宅を見据えたリハビリまで提供可能な体制を有している。また、災害拠点病院として災害派遣医療チームの組織や、第二種感染症指定医療機関として感染症病床を整備するなど、緊急事態に対して地域の安心・安全を確保する役割を担っている。そのため、今年度も流行を続けた新型コロナウイルス感染症に対して、地域の感染者の入院治療受け入れ先として機能するだけでなく、地域の高齢者施設等で感染が広がった際には、専門の看護師を派遣し感染防御のための指導を行うなど、治療だけではなく地域全体の感染防止のための取組を積極的に行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は前年度同様大幅に改善しており、主な原因も前年同様、新型コロナウイルス感染症に係る補助金である。しかし当年度は前年度に比べて②医業収支比率も大幅に改善し、④病床利用率も微増ではあるが増加している。効率性の面においても、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益は続伸しており、コロナ禍にありながら経営状況の改善が一定程度図れた。ただし、⑧材料費対医業収益比率も伸びており、高額な抗がん剤の使用料も増加しているため、今後はさらなる費用対効果の効率化が求められる。

2. 老朽化の状況について

③の1床当たり有形固定資産は、全国平均と比較して伸びておらず、同時に①の有形固定資産減価償却率は伸び続けているため、他病院と比較すると設備投資が中々進まない状況にある。また、既存の資産にかかる修繕費が老朽化に伴い増加することを考慮し、地域のニーズに合わせた新規医療器械の導入・更新を進め、地域の中核病院としての地位を堅持できるよう、設備投資を行ってきたい。

全体総括

今年度においても、医療環境における新型コロナウイルス感染症の影響は多大であったが、地域完結型の医療提供体制の維持と、救急医療・災害医療の担い手としての役割を同時に果たしていかねばならないという状況に変わりはない。今後も常勤医師の増員、地域の医療機関との連携を加速し、コロナ禍であっても安定した経営にて医療を提供できる体制を構築する必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。